

当院では、3階病棟に感染対策を施した個室を2床つくり、感染症対策のハード面は整いました。今年はソフト面として2人目の感染認定看護師の育成を開始します。

診療機能の更新

次は病院の診療機能の課題です。コロナ禍で診療機能の更新が止まっていたことは否めない事実です。

2023年に開始した『経鼻胃内視鏡』は、2024年に本数を増やしより負担の少ない検査として拡充する予定です。

生理検査に関しても、喘息やCOPDの診療に使用する『呼気NO検査』、『呼吸

抵抗検査』の機器を導入する予定です。

人間ドックの推進

2023年度からドック担当医の退職に伴い、内科医がドックを担当することとなりました。そのため、ドック

受診時から、2次精検や診療を開始

することが可能となり

ました。コロナ禍で健康



診断や人間ドックから遠ざかっていた住民の健康づくり、がんの発見だけでなく生活習慣病の指導にもさらに力を入れていきたいと思えます。

医療機関の連携

地域連携の課題としては、近隣の医療機関の閉院や休診の問題があります。昨年は、実際に複数の病院の閉院などがありました。

当院は、住民の皆さんの新たな受け皿としてかかりやすい外来運営を心掛けていきます。

地域との交流

最後に、コロナ禍は住民の生活に大きな影響を与

えたのみならず、病院と住民の対話の機会を少なくしてしまいました。2023年に病院福祉祭を再開することができましたが、今年はさらに地域、そして地域住民のニーズを把握するために地域との交流を推し進めたいと思えます。



▶院長と労働組合執行委員長
ダルマに願いを込めて…